

**第4期幡多地域アクションプランの進捗状況等について
令和2年度幡多地域アクションプランの修正項目（案）**

幡 多 地 域 本 部

令和2年9月18日（金）

幡多地域アクションプランの進捗状況等

R2. 9. 18

幡多地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

幡多地域のアクションプランに関しては、第4期産振計画のスタートにあたり、42項目に取り組むこととし、実行支援チームの編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けた取り組みを始めたところである。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、幡多地域においても感染拡大防止のため、ホテル・旅館、観光施設や飲食業の休業や営業時間の短縮等の対策をとることを余儀なくされ、各種イベントや体験メニューの受け入れ中止など、幅広い分野の事業者において来客数、売上ともに甚大な影響を受けている。また、一次産業や製造業においても、業種、品目によって甚大なダメージを受けており、各事業者に対し、事業の継続や雇用の維持等に関する支援を行うとともに、「新しい生活様式」に対応した消費需要の喚起、観光振興の回復による地域経済の再生に向けた取り組みを始めている状況である。

一方、新たな賑わい拠点施設として、新足摺海洋館や四万十市中心商店街「はれのぼ」のオープン、西土佐・大月でキャンプ場が整備されるなど、今後の地域振興に大きな期待が寄せられている。

こうしたなか、農業分野では、「ユズ」「直七」「ぶしゅかん」等の柑橘の作付面積の拡大やブランド化、青果や加工品の販売拡大を目指した、官民協働による取り組みを引き続き進めている。宿毛市では文旦、直七、イチゴのブランド化や新たな加工製品の開発、観光誘客などを目指す地域産業クラスターに取り組んでいる。畜産関係では、四万十市西土佐地域の産業振興を目指して官民で組織する「西土佐地域産業振興推進協議会」において、「四万十牛」を活用した新たな加工品や食事メニューの提供、PRに関する取り組みを始め、新たに四万十牛の加工販売施設の整備を進めている。

林業分野では、大月町の土佐備長炭の販路拡大が進んでおり、課題となっている原木の確保に向け、町や生産組合等の関係機関が連携した苗木の植樹を始め、長期的な視点に立った資源の造成策に取り組んでいる。また、新たな生産者候補の技術研修を実施している。

水産業分野では、飲食店向けの出荷が激減し、多大な影響を受けている事業者もある。「かつおの薫焼きたたき」をはじめ、「メジカ」「ブリ」「タイ」「キビナゴ」等の水産加工事業者を中心に、外商活動による販路拡大に取り組んでいるほか、土佐清水市の「メジカ」や宿毛市、大月町の「養殖マグロ・ブリ・タイ」といった、地域の資源を生かした地域産業クラスターを目指す取り組みも継続して進めている。土佐清水市の「メジカ」に関しては、宗田節を原材料とする新商品「スープブロス」を全国に販売するため、産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、大量生産のための製造ラインの整備を進めており、全国的なプロモーションによる販路開拓に向けて取り組んでいる。

商工業分野では、各種商談会が全国的に中止、延期となり、新たにオンラインでの商談会が本格化し、当地域においても参加事業者が増えるなど、今後新たなコンテンツとして位置づけられる。コロナ禍における各商業事業者の経済的影響が甚大ななか、四万十市の天神橋商店街に、中心商店街にぎわい拠点「はれのぼ」が4月にオープンし、現在のところ入込客数が順調に推移しているところである。

観光分野では、新型コロナの影響で県外入込客が望めないなか、また各種イベント等の中止されている状況下ではあるが、7月18日にオープンした新足摺海洋館「SATOUMI」の入館者数が、1ヶ月で5万人を超え、自然・体験型観光の大月町柏島や四万十川、各キャンプ場などの入込客数も大

幅な伸びを示している。三原村のヒメノボタンの里の整備も順調に進んでおり、苺氷りとタイアップしたゆず氷りも好評を得るなど、県内客を中心に新たな動きが見られている。

特に、当地域においては、6市町村長と高知大学、幡多広域観光協議会でリモート会議を随時実施し、コロナ拡大防止対策と観光復興対策が協議され、「ENJOY！はた旅クーポン」の実施につながった。各ホテルや旅館等のコロナ対策の徹底、NPO 法人砂浜美術館のスポーツ合宿受入運営ガイドラインの策定等、コロナ禍における新たな受入対策の取り組みが進んでいるところである。

当地域においては、今後もコロナ感染者の状況や治療対策の確立の状況にも注視し、新たな生活様式の充実にも配慮しつつ、地域産業の活性化を目指し、産業振興計画の目標達成に向け官民協働で取り組みを進めていく。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.1 幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等の推進(宿毛市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)成田果樹園 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点(H30): 5,420万円</p> <p>到達目標(R2): 6,500万円</p> <p>目標(R5): 7,500万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R2.4月~R2.6月): 12,958千円 (対前年同期比 75.3%)</p> <p>○既存商品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機栽培、減農薬栽培への継続的な取り組み ・宿毛市ふるさと納税返礼品への出品 <p>※ふるさと納税の返礼品が伸びたため新型コロナウイルスの影響は少ない</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上アップに向けた新たな市場開拓 ⇒新商品開発、体験メニューづくり ⇒既存商品(柑橘・加工品)のPR促進
<p>■No.2 土佐極鶏あしずりキングの生産加工・流通・販売の推進(土佐清水市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・(株)足摺農園 ・土佐清水市 	<p>[指標]</p> <p>(1)あしずりキング生産羽数</p> <p>出発点(H30): 1,950羽</p> <p>直近値(R元): 1,800羽</p> <p>到達目標(R2): 4,920羽</p> <p>目標(R5): 7,438羽</p> <p>(2)あしずりキング加工出荷額</p> <p>出発点(H30): 519万円</p> <p>直近値(R元): 1,121万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>到達目標 (R2) : 2,230 万円 目標 (R5) : 3,375 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) あしずりキング生産羽数 (R2.4月末) : 200 羽 (対前年同期比 133.3%) (R元年度 : 1,850 羽)</p> <p>(2) あしずりキング加工出荷額 (R2.4月末) : 1,377 千円 (対前年同期比 231.4%) (R元年度 : 1,121 万円)</p> <p>○生産体制の整備 ・県版 HACCP 第 2 ステージ取得 (R元.5月)</p> <p>○流通体制の整備 ・販売先 (関西の卸事業者) より R元年 10 月から 100 羽から 200 羽への出荷羽数増。いまも 200 羽を出荷している。 ・販売先 (関西の卸事業者) を通じた高知市飲食店への出荷</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工処理体制の確立 (衛生管理体制等) ⇒加工処理施設の円滑な運営 ⇒県版 HACCP 第 3 ステージ取得 ・販路の確保 ⇒販売先等と連携した営業活動、商談会への出展 ・ブランド化の推進 ⇒ブランド化協議会で市内提供飲食店の増加を呼びかけるなど、地域ブランド鶏としての確立を目指す
<p>■No.3 四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化 (四万十市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十ぶしゅかん生産者組合</p> <p>◎・四万十ぶしゅかん(株)</p> <p>・四万十市</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 栽培面積 出発点 (H30) : 1,106a 直近値 (R元) : 1,350a 到達目標 (R2) : 1,266a 目標 (R5) : 2,506a</p> <p>(2) 生産量 出発点 (H30) : 32,592kg 直近値 (R元) : 24,943kg 到達目標 (R2) : 31,924kg 目標 (R5) : 61,154kg</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1)栽培面積 (R2.6月末) : 1,350a (対前年同期比 120%) (2)生産量 : - (※収穫期間は8~10月)</p> <p>○産地化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市苗木補助メニュー及び産地化推進人員補助メニュー (ぶしゅかん産地化推進事業: 地方創生交付金) の活用(4月~) <p>○生産量の増加 ※新型コロナの影響で動きなし</p> <p>○展示会や商談会への出展及び量販店への営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ※新型コロナの影響で動きなし <p>○各種媒体でのPR活動</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の生産技術、ノウハウの習得 ⇒生産者の栽培技術の向上や知識の習得に向けた研修会、講習会の継続的な実施 ・100年ぶしゅかんブランドの確立 ⇒生産者組合の連携体制の一層の強化、結束力の向上 ⇒出荷基準の徹底 ・販売戦略の構築 ⇒ターゲットを絞った販売ルートの確立 ⇒美容機能のPR ・ぶしゅかんの認知度の向上 ⇒地元の飲食店等での活用促進 ⇒メディアを活用したぶしゅかんのPRの継続実施 ・生産コストの削減、衛生管理体制の強化 ⇒集荷・選果・搾汁・保管機能を有した拠点施設の安定稼働 ⇒県版 HACCP 第2ステージ認証申請に向けた取り組み
<p>■No.4 三原村ユズ産地化計画の推進 (三原村)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(公財)三原村農業公社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県(幡多地区) ・三原村 	<p>[指標]</p> <p>青果出荷量(公社)</p> <p>出発点(H30) : 34t 到達目標(R2) : 53t 目標(R5) : 61t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>青果出荷量(公社) : - (※収穫は10月から)</p> <p>○地域農業支援システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公社・研修生にむけて(公社) <p>関係機関と協議(4/7、4/17 公社・村・県)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(生産管理体制の見直し、スマート農業の取り組み等)</p> <p>公社園巡回 (4~6月 4回)</p> <p>防除等講習会 (5/28 21名)</p> <p>進捗管理支援 (4~6月 アドバイザー協議3回、班長会議3回延べ20名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の取り組み 事業申請 (5/19) 及び事業採択 (6/2) <p>○新規就農者 (就農5年以下) の経営安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥培管理・防除・剪定等個別巡回指導 (4~6月 8回) ・防除等講習会 (6/11 3名) <p>○ユズ商品加工・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆずマーマレード・ゆず胡椒を幡多管内の道の駅等にて販売中 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ共同選果施設の効果的運用 ⇒選果効率アップのため、JA三原支所柚子部会による施設運営協議を継続して実施 (生産者による粗選果、計画的搬入等) ・スマート農業機器の導入と効率的利用 ⇒効率的利用方法の確立 (作業効率の向上のため、園地経営管理ソフトとリモコン式自走草刈り機を導入)
<p>■No.5 大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進 (大月町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町備長炭生産組合 	<p>[指標]</p> <p>販売量</p> <p>出発点 (H30) : 112t</p> <p>直近値 (R元) : 105.5t</p> <p>到達目標 (R2) : 120t</p> <p>目標 (R5) : 120t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>販売量 (R2.6月末) : 28t (対前年同期比 96.4%)</p> <p>○生産力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産組合の定例総会の開催 (事業計画等の協議) (5/12) ・新たな生産者候補の技術研修の実施 (新規就業者支援事業: 7/1~) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○原木 (ウバメガシ) の安定的な確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の確保に向けた関係先との調整 ⇒県、町、組合三者間連絡会議の継続実施

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視野に立った資源の造成 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ウバメガシ搬出作業道の整備 ⇒ウバメガシ林の造成の検討 ⇒ウバメガシ林の択伐方式の技術の習得 ・製炭事業や山林資源の活用について地域に知ってもらう啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ⇒植樹祭での啓発活動 <p>○生産の安定化と増産、品質の確保、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒生産性の向上を目指した意識付け、知識・技術の習得 ⇒新型コロナウイルスの影響で直売の取引が減少、新たな取引先の確保
<p>■No.6 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト(宿毛市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・宿毛市 ◎・(一社)スタートアグリカルチャーすくも ・JA高知県(幡多地区) ・(一社)宿毛市観光協会 ・他関連事業者 	<p>[指標]</p> <p>(1)イチゴ生産量</p> <p>出発点(H30):80t</p> <p>到達目標(R2):83t</p> <p>目標(R5):95t</p> <p>(2)イチゴ生産者戸数</p> <p>出発点(H30):9戸</p> <p>到達目標(R2):9戸</p> <p>目標(R5):15戸</p> <p>(3)文旦栽培面積</p> <p>出発点(H30):90ha</p> <p>到達目標(R2):90ha</p> <p>目標(R5):96ha</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)イチゴ生産量(R2.6月末時点):—(※収穫は12月～)</p> <p>(2)イチゴ生産者戸数(R2.6月末時点):9戸</p> <p>(3)文旦栽培面積(R2.6月末時点):90ha</p> <p>○生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立用のハウスおよび研修生の確保に向けた継続的な取り組み <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも文旦フェア2020へ参加(フェア期間:3月～4月下旬) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の開発・販売の強化 ⇒農家及び市内事業者との製造方法等検討、商談会等への参加

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.7 すくも湾漁協による水産物の加工・販売(宿毛市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁業協同組合 <p>※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点(H30): 3,399万円</p> <p>直近値(R元): 3,575万円</p> <p>到達目標(R2): 3,400万円</p> <p>目標(R5): 5,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R2.6月末): 6,845千円(対前年同期比81.2%)</p> <p>○コロナウイルスの影響による魚価の低迷及び商品発注量の減少に伴い、大きな取り組みは実施していない。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>コロナウイルス感染拡大の影響による売上の減少及び商品の生産量の低下がみられるため、コロナウイルスの影響を加味しながら、H30指標まで底上げしていく。</p>
<p>■No.8 宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売(宿毛市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)勇進 <p>※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点(H30): 1.7億円</p> <p>直近値(R元): 2.95億円</p> <p>到達目標(R2): 3億円</p> <p>目標(R5): 5億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R2.6月末): 59,500千円(対前年同期比180.9%)</p> <p>○販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外大手スーパーマーケット、県外外食関係事業者などへの販促活動の継続実施 ※コロナで中止となった商談会: 2件 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上アップに向けた新たな取引先の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ⇒商談会や催事等への積極的な参加 ⇒取引先の拡大に向けた県外での営業活動の強化 ⇒海外の新規取引予定業者との交渉の促進 ・衛生管理体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ⇒県版HACCP第3ステージ認証取得に向けた社員教育の実施 ・生産体制の充実、強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒責任者の配置、人材育成の強化

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.9 宿毛湾のキビナゴ加工商品等の販売拡大(大月町)</p> <p>《実施主体》 ◎・八重丸水産(株)</p> <p>※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高(9~8月) 出発点(R元):2,855万円※H30.9~R元.8 到達目標(R2):3,000万円 目標(R5):3,400万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R元9月~R2.6月):2,123万円 (対前年同期比89.7%)</p> <p>○販路拡大 ・キビナゴケンピの製造、取引先への継続的な出荷</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・増益に向けた、既存商品の改良及び販路拡大 ⇒既存商品のバリエーション化に合わせた原価率の改善、高利益率商品の販路拡大 ・サプライチェーンの毀損対応 ⇒外部で加工していた商品の一部を内製化</p>
<p>■No.10 宿毛湾の干物等水産加工品の販売拡大(大月町)</p> <p>《実施主体》 ◎・土佐大月海産</p> <p>※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高(12月決算期※)※1~12月 出発点(H30):2,602万円 ※H30.1~H30.12 直近値(R元):2,888万円 到達目標(R2):3,000万円 目標(R5):3,300万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R2.1~6月):1,416万円 (対前年同期比98.5%)</p> <p>○販促営業、情報発信 ・チラシ、インターネットを通じた継続的な販売 ・客船業界への納品継続(船内昼食メニュー) ・通年用リーフレットの配布(ふるさと納税返礼品に同封) ・お中元商品のDM発送、宣伝・販売</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・利益率が高い個人顧客の獲得(新規・リピーター) ⇒ふるさと納税を活用した販売促進</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 宿毛市特産直七の生産・加工・販売の促進（宿毛市）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・直七生産(株)</p> <p>・直七の里(株)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 2,900 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 5,000 万円</p> <p>目標 (R5) : 9,400 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.6 月末) : 380 万円 (前年同期比 69.5%)</p> <p>○生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり補助金を活用した搾汁機械の改修 (予定) <p>○販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外大手スーパーマーケット、県外外食関係事業者などへの販促活動の継続実施 ※コロナで中止となった商談会 : 2 件 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原料 (直七) 供給の安定化 ⇒生産者に対する栽培技術の共有 ・果汁搾汁率の向上 ⇒搾汁機械改修 ・新たな取引先の獲得 ⇒商談会や催事等への積極的な参加 ⇒青玉出荷の検討および体制の確立
<p>■No. 13 幡多地域における昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等の推進（宿毛市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)菱田ベーカリー 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 4,567 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 3,842 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 6,000 万円</p> <p>目標 (R5) : 9,000 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.6 月末) : 930 万円 (対前年同期比 89.4%)</p> <p>○販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外への出張販売 (4~6 月 : 3 件) ※コロナで中止となった商談会及び催事 : 3 件 <p>○生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーによる衛生管理強化 (6 月~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和レトロをコンセプトとした商品開発および販路開拓

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒県内外の展示会、商談会への出展や営業活動による外商の取り組みの強化、テストマーケティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理体制の充実 <p>⇒県版 HACCP 第3ステージ認証取得及び定着に向けた取り組みの強化</p>
<p>■No. 14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進（土佐清水市）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐清水食品(株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水鯉節水産加工協同組合 ・宗田節をもっと知ってもらいたい委員会 ・土佐清水市 <p>※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>土佐清水食品(株)の売上高</p> <p>出発点 (H30) : 18.5 億円</p> <p>直近値 (R 元) : 18.7 億円</p> <p>到達目標 (R2) : 20.6 億円</p> <p>目標 (R5) : 23.6 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>土佐清水食品(株)の売上高 (R2.5月末) : 2.88 億円</p> <p>○経営戦略の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水メジカ産業プロジェクト推進協議会 (5/29) ・土佐清水ホールデングス(株)、土佐食(株)、(株)土佐清水元気プロジェクトが土佐清水食品(株)として合併 <p>○原魚確保、生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍保管施設の運用開始(H31～) ・共同加工施設、残渣処理施設の整備 <p>○商品開発及び販売活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品「スープブロス」の販売を道の駅「めじかの里」とHPで開始 (H30.4月～) ・「スープブロス」製造ラインの整備 (9月着工予定) 産業振興総合補助金による施設整備の実施 ・宗田節ロードスタンプラリー (R元.7/1～R3.3/31) ・R2年度宗田節祭り中止 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料となる原魚の確保 ⇒冷凍保管施設の利用促進による原魚在庫の安定化 ・新商品「スープブロス」の市場流通に向けた製造ラインの整備 ⇒大量生産のための製造設備整備の実施 ・市民の宗田節の日常利用の促進 ⇒市民向けプロモーションの展開 (料理教室など) ・衛生管理の維持・向上 ⇒衛生管理研修会等への参加 ・商品力の強化と販路拡大に向けた取り組みの強化 ⇒市場ニーズに対応した商品づくりの継続的な展開

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 宗田節だし加工商品の販路拡大の促進（土佐清水市）</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(株)ウェルカムジョン万カンパニー</p> <p>※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高 ※1～12月</p> <p>出発点（H30）：8,516万円</p> <p>直近値（R元）：8,672万円</p> <p>到達目標（R2）：8,813万円</p> <p>目標（R5）：1億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高（R2.1～6月）：3,376万円（対前年同期比89.4%） （R元年度：8,672万円）</p> <p>○外商活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品 宗田節おかきカレー味の販売（4月） ・個別商談（東京都 7/1～7/2） ・グルメ&ダイニングスタイルショーへの出展（10月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな販路の開拓 ⇒県外での商談会や催事等への参加 ・既存商品の磨き上げ ・映像を活用した商品紹介手法の開発（新しい生活様式への対応） ⇒産振アドバイザーの活用 ・衛生管理の維持・向上 ⇒衛生管理研修会等への情報提供
<p>■No. 16 幡多地域産品を活用した加工商品の開発販売と流通システムの構築（土佐清水市）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐清水沸騰社中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水外商流通組合 ・土佐清水市 <p>※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>出荷事業者数</p> <p>出発点（R元）：33事業者</p> <p>到達目標（R2）：36事業者</p> <p>目標（R5）：50事業者</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>出荷事業者数（R2.4月末）：33事業者</p> <p>○流通システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の拠点（土佐清水活性化組合）で集荷、混載による発送の効率化 <p>○地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水メジカ産業プロジェクト推進協議会（5/29） ・「土佐清水ワールド」全店舗営業再開（6月～）

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通システムの構築 ⇒生産者や加工事業者が事業推進に参加しやすい仕組みづくり ⇒活魚輸送の効率化、輸送コストの削減等に向けた輸送方法の検討 ・地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進 ⇒生産者や加工事業者との連携の仕組みづくり ⇒お客様のニーズ、新しい生活様式に合った新商品、販売方法の検討
<p>■No17 宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化（土佐清水市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)たけまさ商店 <p>※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)売上高 出発点（R元）：7,400万円 到達目標（R2）：7,765万円 目標（R5）：9,600万円</p> <p>(2)体験者数 出発点（R元）：200名 到達目標（R2）：250名 目標（R5）：700名</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)売上高（R2.7月末）：1,173万円（対前年同期比55%） (2)体験者数（R2.7月末）：5人（対前年同期比4.5%）</p> <p>○生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した宗田節加工販売・体験観光施設の整備（9月着工予定） ・県版 HACCP 第3ステージ取得へ向けた取り組み <p>○販路拡大に向けたスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐 MBA の受講（7月～） ・刃物メーカーと連携した鰹節削り体験セットの販売（4月～） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産体制、衛生管理体制の確立 ⇒宗田節加工販売・体験観光施設の円滑な整備、運営 ⇒県版 HACCP 第3ステージ取得 ・販売拡大 ⇒新施設で販売する新商品の開発 ⇒産業振興アドバイザーの活用

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 西土佐産栗の地産外商の推進 (四万十市)</p> <p>《実施主体》 ・(株)しまんと美野里</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)売上高 (6～5月) 出発点 (H30) : 1,250万円 直近値 (R元) : 1,200万円 到達目標 (R2) : 1,200万円 目標 (R5) : 2,000万円</p> <p>(2)生栗の仕入量 (6～5月) 出発点 (H30) : 7.8t 直近値 (R元) : 6.8t 到達目標 (R2) : 7.6t 目標 (R5) : 10.0t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)売上高 (R2.6月末) : 76千円 (対前年同期比 434%) ※会計年度 6月～5月</p> <p>(2)生栗の仕入量 : - (※収穫前のため実績なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram を活用した情報発信 ・農家へ害虫対策の情報共有 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な栗の仕入れ ⇒市、JA 高知県 (幡多地区) など関係機関との連携強化 (西土佐農商工連携検討会での定期的な協議など) ⇒モデル栗園の円滑な整備 ⇒栗栽培の先進地視察 ⇒集荷農家の増加に向けて、作業道整備や獣害対策網の設置等の実施 ⇒大学生や地域おこし協力隊等を活用した収穫時期における人手不足対策の検討
<p>■No. 19 四万十牛の生産・加工・販売体制の強化 (四万十市)</p> <p>《実施主体》 ◎・(株)四万十牛本舗 ・西土佐中央牧場 ・地域事業者</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高 出発点 (H30) : 1億9,000万円 直近値 (R元) : 1億9,453万円 到達目標 (R2) : 2億3,544万円 目標 (R5) : 2億6,800万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 : (R2.5月末) : 2,983万円 (対前年度比 96%) ・「はれのば」への屋台 (テナント) 出店 (焼肉店) (4月～)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・西部家畜保健衛生所による主に生産面に関する支援 (月1回程度訪問) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育頭数の拡大 ・新たな加工販売施設の整備 (R2.12月オープン予定) ⇒産業振興総合補助金による施設整備 ⇒県版 HACCP 第3ステージ認証取得に向けた研修等への誘導 ・ブランド化に向けた取り組み ⇒ブランド化に向けた協議の場づくりの検討 ⇒新店舗で販売する商品開発や店舗のPR及び販促活動の強化 ・売上拡大に向けた道の駅などでの加工品の販売促進 ⇒消費者ニーズに対応した継続的な商品づくり ⇒道の駅等での商品の売り方検討 (BBQ等) ⇒西土佐地域産業振興推進協議会での事業者連携計画づくりの検討
<p>■No.20 売り出せ西土佐プロジェクト推進 (拠点ビジネス) (四万十市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)西土佐ふるさと市 ・四万十市</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高 出発点 (H30) : 1億6,400万円 直近値 (R元) : 1億6,969万円 到達目標 (R2) : 1億6,700万円 目標 (R5) : 1億7,300万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.5月末) : 1,589万円 (対前年同期比45%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の開催 (1回) ・「水々しいオンライン市場」オープン (5月) ・アツいまちサミットへの参加 (6/6) ・さとうみまんまるマルシェ (7/18~7/19) ・沖縄県道の駅許田物販交流 ・青森県道の駅つるた物販交流 ・秋田県道の駅しょうわ物販交流 ・北海道道の駅あさひかわ物販交流 ・愛媛奥伊予スイーツ街道への参加 (4/18~11/30) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の売上げの拡大 ⇒運営会議の継続的な開催 (情報共有及び改善点への対応協議等) ⇒新メニュー等の開発支援、設備導入への支援メニューの情報

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	収集 ⇒集客アップのためのイベント等の開催 ⇒スタッフのスキルアップのため、土佐 MBA (商人塾等) 受講への誘導 ⇒西土佐地域産業振興推進協議会での事業者連携計画づくりの検討
<p>■No. 21 四万十地域の素材を活用した加工商品の外商強化 (四万十市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・しまんと百笑かんぱに(株)</p> <p>・四万十市地域商品研究会</p>	<p>[指標]</p> <p>しまんと百笑かんぱに(株)の売上高</p> <p>出発点 (H30) : 4,844 万円</p> <p>直近値 (R元) : 4,056 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 8,337 万円</p> <p>目標 (R5) : 1 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>しまんと百笑かんぱに(株)の売上高 (R2.5月末) : 327 万円 (対前年同期比 60.6%)</p> <p>※総じて新型コロナウイルスの影響 (商談会中止や県外小売店の休業、海外からの注文大幅減) により売上減</p> <p>※通販サイトによる売上が大半を占めている</p> <p>○自社商品の開発強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい種類の「だしドリップ」の開発の検討 ・新製品「液体だし」の開発 ((株)土佐清水食品とのコラボ企画) <p>※試作段階だが新型コロナウイルスの影響により動きが止まっている</p> <p>○生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造人員は R元年度と同体制 <p>新型コロナウイルスの影響により、売上が減少していることと従業員の感染予防対策のため、勤務態勢を見直し 1/3 の人員での製造体制で稼働している</p> <p>○販売拠点整備と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回日本の食品輸出 EXPO 出展予定(R2.10/14~16 予定) ・通販サイト GRADD、トランクホテル、サンクゼール等との取引継続 ・新たな県内宿泊施設 (7daysHotel) での取り扱い開始 (R2.6月~) ・ポータルサイト開設の検討((株)四万十ドラマとのコラボ企画)…しまんと百笑かんぱに(株)を含む無添加商品の販売を行っている地元企業 9 社の情報を集めたポータルサイトの

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国食品安全強化法(FSMA)への対応…将来的な米国への輸出を視野に入れ対応を検討 <p>○四万十市地域商品研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市との実施計画及び予算の協議 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる売上減の回復 ⇒商談会への参加、通販サイトでの商品提案 ・都市部で訴求力のあるライフスタイル提案型商品の開発 ・高付加価値路線への販路拡大 ⇒ソムリエ等都市部の専門家との協業 ⇒新たな地域素材の情報収集 ・四万十市地域商品研究会の活動強化 ⇒活動内容及び運営形式の見直し
<p>■No. 22 幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大 (四万十市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WAN LIFE 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 2,064 万円</p> <p>直近値 (R元) : 3,040 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 3,500 万円</p> <p>目標 (R5) : 6,000 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.6月末) : 1,600 万円 (対前年同期比 120%)</p> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫関連商品開発の検討 ※原材料であるまたたびの確保に時間を要している ・レトルト商品開発の検討 ※宿毛市の工場と連携し、大手食品流通会社に卸す商品として R3 年度をめどに開発予定 ・原材料確保…現在、JA や市場等から主に原材料を仕入れているが、新たに東富山地域の農家からの仕入れが可能との話が出てきたため、東富山地域担当の地域おこし協力隊を通じて調整中 <p>○事業効率向上策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R元から引き続き外部委託や IT 導入等による製造及び受発注工程の簡素化により業務効率の向上に繋がっている <p>○販促活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手定期便販売ポータルサイトでの販売 (4 サイト) ・コロナの影響もあり、通販での売上が伸びている

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上の増加 <ul style="list-style-type: none"> ⇒通販サイト及びふるさと納税のさらなる強化 ⇒自社定期便の開発 ・県産原材料の確保による新商品展開 <ul style="list-style-type: none"> ⇒原材料生産者の情報収集 ・従業員の確保 <ul style="list-style-type: none"> (社長と共に営業/運営等の業務を担える人材の確保) ⇒今後人材発掘の方法を時期をみて検討
<p>■No. 23 四万十の地域食材を活用した商品 開発・製造・販売の促進（四万十市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)LLP しまんと 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点（H30）：2,584万円</p> <p>直近値（R元）：2,150万円</p> <p>到達目標（R2）：2,400万円</p> <p>目標（R5）：3,500万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高（R2.7月末）：551万円（対前年同期比75%）</p> <p>○販路開拓及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員増により商談会等への参加を強化 ・ポータルサイト開設の検討((株)四万十ドラマとのコラボ企画) ※しまんと百笑かんぱに(株)を中心に無添加商品の販売を行っている地元企業9社の情報を集めたポータルサイトの立ち上げ <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月完成を目標にボカ(黒砂糖)を用いた商品開発を検討 ※商品開発と自社HPの改良にものづくり・商業・サービス補助金(国補助金)の活用を検討中 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員確保 <ul style="list-style-type: none"> ⇒高知求人ネットの活用 ・生産効率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ⇒生産の効率化に向けた設備導入の検討 ・売上の増加 <ul style="list-style-type: none"> ⇒PB・OEMの受注PRも含めた営業活動の展開 ⇒商談会等への出展の強化 ⇒通販販売の展開

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進 (四万十市)</p> <p>《実施主体》 ・(有)和</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高 ※6～5月 出発点 (H30) : 2,288 万円 直近値 (R元) : 1,277 万円 到達目標 (R2) : 2,300 万円 目標 (R5) : 3,500 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.7月末時点) : 53 万円 (対前年同期比 29%)</p> <p>○販路拡大 ・新型コロナウイルスの影響により商談会等にも出展できず十分にできていない</p> <p>○商品開発及び改良 ・県内大手食品流通企業との商品開発及び販路開拓</p> <p>○その他 ・県内スーパーへの既存商品の出荷を強化 ・通販での販売促進の検討 (新型コロナウイルスの影響をうけて) ・新施設建設の検討 (R4 年度頃をめぐり市の土地を活用) ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証待ち</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・販売先の確保 ⇒通販サイト等での販促活動を検討</p> <p>・生産拡大・効率化や衛生管理の徹底のための環境づくり ⇒県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得に向けた取り組みの強化</p>
<p>■No. 25 地域商業活性化拠点「はれのば」を核とした中心市街地の活性化 (四万十市)</p> <p>《実施主体》 ◎・四万十市中心商店街活性化協議会 ◎・四万十にぎわい商店 (株) ・四万十市</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 中心商店街エリア内の売上額 出発点 (R元) : 8 億 3,100 万円 到達目標 (R2) : 8 億 8,996 万円 目標 (R5) : 9 億 1,411 万円</p> <p>(2) 中心商店街エリア内の通行量 出発点 (H26～30 平均) : 平日 5,226 人、休日 4,036 人 到達目標 (R2) : 平日 5,421 人、休日 4,189 人 目標 (R5) : 平日 6,005 人、休日 4,647 人</p> <p>(3) 新規出店者数 出発点 (R元) : 0 店舗 到達目標 (R2) : 2 店舗 目標 (R元～5 累計) : 8 店舗</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(4) 売上額 (四万十にぎわい商店 (株)) 出発点 (R 元) : 0 円 到達目標 (R2) : 1,761 万円 目標 (R5) : 1,861 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 中心商店街エリア内の売上額 : - (※年度末に集計) (2) 中心商店街エリア内の通行量 : - (※年度末に集計) (3) 新規出店者数 : - (※年度末に集計) (4) 売上額 (四万十にぎわい商店 (株)) (R2.7 月末時点) : 478 万円 (皆増)</p> <p>○推進組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十にぎわい商店(株)取締役会にて随時情報共有 (月 1 回開催) ・四万十市中心商店街活性化協議会開催 <p>○事業効果を高める仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はれのばを活用したイベント開催の検討 ・はれのば PR 動画作成 <p>※四万十市新型コロナウイルス感染症対策商店街等活性化事業費補助金を活用 (採択済)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保及び育成 ⇒移住促進・人材確保センター、商人塾の活用提案
<p>■No. 26 道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出 (大月町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一財)大月町ふるさと振興公社 ◎・大月町</p> <p>※地域産業クラスター関連 (宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高 (3 月決算期) 出発点 (H30) : 1 億 9,400 万円 直近値 (R 元) : 2 億 700 万円 到達目標 (R2) : 2 億 3,000 万円 目標 (R5) : 2 億 5,000 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.4~6 月) : 3,567 万円 (対前年同期比 67.1%)</p> <p>○地場産品総合販売ビジネス (ファンづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおつきふれあいマーケットの実施(毎月第 3 日曜日) ※コロナで 7 月まで中止 ・イベント等への出店 (県内 1 回) ・ギフトカタログ等での販売 (夏:6~10 月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理体制の充実強化 ⇒県版 HACCP 上級ステージを目指すための専門家派遣 商品の PR 強化やふるさと納税からのリピーターの獲得 ⇒通販サイトの移行や機能の拡充
<p>■No. 27 三原村のどぶろくによる地域活性化 (三原村)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐三原どぶろく (同) 	<p>[指標]</p> <p>売上高 (6月～5月期)</p> <p>出発点 (H30) : 1,479 万円</p> <p>直近値 (R元) : 1,463 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1,600 万円</p> <p>目標 (R5) : 1,900 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.4～5月末) : 41 万円 (対前年同期比 49.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売促進活動の展開 さとうみまんまるマルシェ (7/18, 19)、三原村特産品フェア (9/5、6) 中筋川ダムへのどぶろく貯蔵 コロナ応援キャンペーンの実施 (5月) 企業組合いわまつへの視察 (7/1) ニッポン全国お取り寄せ応援フリマ情報誌への掲載 新商品開発に向けた試作品づくり (8月～) どぶろく農家ごとの高知県版 HACCP 第2ステージの認証取得 (6軒中4軒済み) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスの影響による売上の減少 ⇒新商品の試作研究及び製造体制の整備検討 衛生管理体制の整備 ⇒一般衛生管理マニュアルの作成 既存取引先との取引再開及び販路拡大 ⇒SNS の活用及び展示・商談会への参加
<p>■No. 28 三原産トマトを中心とした加工・販売の推進 (三原村)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)ベストグロウ 	<p>[指標]</p> <p>売上高 (12月～11月期)</p> <p>出発点 (H30) : 9,395 万円</p> <p>直近値 (R元) : 9,886 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 9,550 万円</p> <p>目標 (R5) : 1 億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R 元. 12~R2. 4 月末) : 4,846 万円 (対前年同期比 106.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進活動の展開 三原村特産品フェア (9/5、6) ・コロナウイルス対策に向けた職場環境整備 ・JAL 国内線 1st クラスの飲料として採用 (ジュース) ・あぐり窪川エヴァンゲリオン展の塩トマトゼリーとして採用 (ピューレ) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響による加工場の稼働率低下 ⇒取引先との関係継続に向けた情報交換及び取引再開 ・加工品の販路拡大 ⇒オンライン商談会等、新たな商談形態への迅速な対応 ・高知県版 HACCP 第 3 ステージの認証取得 ⇒担当者の職場復帰後、書類整理及び提出
<p>■No. 29 黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進 (黒潮町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有) ソルティープ 	<p>[指標]</p> <p>売上高 (3~2 月)</p> <p>出発点 (H30) : 2,261 万円 直近値 (R 元) : 2,547 万円 到達目標 (R2) : 2,411 万円 目標 (R5) : 2,823 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2. 6 月末 (3~6 月)) : 959 万円 (対前年同期比 123%)</p> <p>○販路開拓・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの塩に関する講義を実施(7/22) ※例年参加している商談会の開催なし <p>○県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得 (7/10)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の知名度アップとさらなる販路開拓 ⇒各種商談会への出展による販路開拓の促進 (10 月実施の商談会申込み中) ・生産施設の修繕 ⇒鳥獣被害により結晶ハウス修理予定 ・衛生管理の徹底

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒県版 HACCP 第3ステージの認証取得 ・生産体制の強化 ⇒繁忙期の人材不足が予想されるが、適任者がおらず新規雇用の目途無し
<p>■No. 30 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進（黒潮町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)なぶら土佐佐賀</p> <p>・黒潮町</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 2億1,628万円</p> <p>直近値 (R元) : 2億1,576万円</p> <p>到達目標 (R2) : 2億1,000万円</p> <p>目標 (R5) : 2億2,600万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.4~5月) : 1,056万円 (対前年同期比 21.7%)</p> <p>○商品開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間限定商品（カマスフライ定食）発売(6月～) ・ランチパスポート vol.33 高知版掲載（5～8月） <p>※六周年祭中止(4/5 実施予定)</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4/29～5/6 臨時休業、フードコートエリアは 4/25～5/18 臨時休業</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘客促進のための魅力ある店舗づくり <p>⇒町内関連施設との連携</p> <p>⇒幡多地域の観光情報等発信機能の強化</p> <p>⇒新商品の検討</p> <p>⇒市場調査(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の集客力強化 <p>⇒商品の品揃えの充実、商品アイテムや数量の増大、スペースの有効活用</p>
<p>■No. 31 黒潮町の地域産品を中心とした水産加工品等の販売促進（黒潮町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(有)土佐佐賀産直出荷組合</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 8,600万円</p> <p>直近値 (R元) : 9,106万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1億600万円</p> <p>目標 (R5) : 1億3,031万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(3~6月) : 4,159万円(対前年同期比 131%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品(キハダマグロ青のりフライ、キハダマグロ竜田揚げ)発売(4月～) ・オンライン商談の実施(6月～) ・産業振興アドバイザー制度採択(6/12) (自社ネットショップへの集客の強化、情報発信の指導等) ・ヨシケイのメニューブック掲載(8月予定) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保 ⇒外国人人材の活用(9月に受入れ予定だったが、コロナウイルスの影響により未定になった。) ・既存取引先との関係強化 ⇒新商品開発による商品種類及び取引量の増大
<p>■No. 32 黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進(黒潮町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)黒潮町缶詰製作所</p> <p>・黒潮町</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点(H28～30平均):7,600万円</p> <p>直近値(R元):9,600万円</p> <p>到達目標(R2):9,598万円</p> <p>目標(R5):1億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R2.4月末):801万円:(対前年同期比231%)</p> <p>※ふるさと納税の伸びによるもの</p> <p>○商品開発・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン商談会への出店 ・とさのさと AGRICOLLETO への出店 <p>※例年出店しているTシャツアート展は開催延期(10/31～11/3)、はだしマラソンは中止</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理、衛生管理体制の強化 ⇒持続的な社員教育の実施 ・県内外への販売促進強化 ⇒商談会への出店 ⇒ギフト商品の拡大 ・地域資源を活用した商品開発 ⇒黒潮町内に限らず県内の事業者との連携強化

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 幡多広域における滞在型・体験型観光推進プロジェクト（幡多地域全域）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）幡多広域観光協議会 <p>※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)延べ宿泊者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 出発点（H30）：398,797人 到達目標（R2）：400,000人 目標（R5）：443,000人 <p>(2)外国人延べ宿泊者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 出発点（H30）：12,101人 到達目標（R2）：13,000人 目標（R5）：15,400人 <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)延べ宿泊者数：－（※年度末に集計）</p> <p>(2)外国人延べ宿泊者数：－（※年度末に集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から8月までの予約は全て中止または延期 ・新規含め合計30件の予約、15件取消、3件中止 ・7月から下見受入（9件） <p>○商品造成・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行向け1件、団体向け商品7件、個人向け商品6件造成 ・土佐の観光創生塾の受講（7月） ・観光地域づくり塾の受講（7月～8月） ・SHIMANTO ASHIZURI BusPassをジョルダンのモバイルチケット化（9または10月から販売開始） <p>○誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊って使えるクーポン事業の実施（クーポン有効期限R2.8.1～R3.1.31） ・OATAモニターツアー受入（8/5～6） ・新型コロナウイルス感染症対策チェックシート作成（クーポン事業参画事業者に配布） ・市町村営バス（宿毛市営定期船含む）の情報をグーグルマップに掲載（検索可能に） ・高知西南交通のバス情報のGTFS-JP化 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊観光につなげる旅行商品づくり ⇒観光地域づくり塾においてSDGsを切り口にした周遊観光商品づくり ・誘致促進に向けた取り組み ⇒高知県、高知県観光コンベンション協会や市町村等と連携

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>した誘致活動の継続</p> <p>⇒ICT を活用した観光誘客を推進 (Instagram、HP、グーグルマイビジネス、GTFS-JP、キャッシュレス決済、Wi-Fi 整備等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体と連携した組織強化 <p>⇒多様な関係者と連携し、日本版 DMO 法人登録を生かした観光地づくり</p> <p>⇒新型コロナウイルス感染症感染拡大を防ぐため業態ごとのチェックシートを作成・配布し、対策状況を HP で公開することで安全・安心を地域として PR</p> <p>⇒SATOUMI の事業者向け説明会開催 (6 月)</p> <p>⇒パワーアップ研修の実施 (7 月)</p>
<p>■No. 34 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (幡多地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社) 幡多広域観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幡多 6 市町村及び観光協会等 	<p>[指標]</p> <p>延べ宿泊者数</p> <p>出発点 (H30) : 11,964 人</p> <p>到達目標 (R2) : 15,000 人</p> <p>目標 (R5) : 15,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>延べ宿泊者数 (R2.7 月末) : 727 人 (対前年同期比 9.2%)</p> <p>○宿泊客数 (R2.7 月末) : 220 人 (対前年同期比 : 7.1%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症対策として 4 月より受入休止</p> <p>県内 6/19～、県外 7/23～再開</p> <p>○地域の受入態勢の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致活動 : 県内 (6/18～19) <p>○新型コロナウイルス感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入運営ガイドラインの作成 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工芝を含む施設等の PR 促進 <p>⇒継続的なプロモーション活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツツーリズムに係る広域観光協議会及び各市町村の態勢の充実 <p>⇒受入態勢充実に向けた各市町村との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光コンベンション協会や各種競技団体等の関係機関との連携強化 <p>⇒スポーツツーリズムに係る関係機関との協議の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の受入態勢づくり <p>⇒新たな集落活動センターとの連携</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 36 竜串地域の観光再生構想の推進 (土佐清水市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・竜串海洋観光クラスター推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市 ・(一社) 土佐清水市観光協会 ・(特非) NPO 竜串観光振興会 ・観光事業者 ・ガイド団体 <p>※地域産業クラスター関連(土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>入込客数(1~12月)</p> <p>出発点(H30): 8.7万人</p> <p>直近値(R元): 8.8万人</p> <p>到達目標(R2): 10.3万人</p> <p>目標(R5): 17万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>入込客数(R2.1~6月末): 1.35万人(対前年同期比29.5%) (R元実績8.78万人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○竜串地域の観光クラスターの取り組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・竜串エリア利用計画の策定(R元年度) ・竜串海洋観光クラスター協議会(5/26) ・国立公園竜串エリア利用計画を進める会(5/26, 6/26) ・インバウンド対応勉強会(6月~) ○竜串地域での連携体制づくり(協議会等で協議) <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐるっと竜串」のロゴ作成 ・ランチマップ作成 ・外国語(英語)相談窓口の開設 ○スノーピーク土佐清水キャンプフィールドの誘客促進 <ul style="list-style-type: none"> ・カツオのタタキ体験メニューの提供 ・地域業者と連携した地元食材の提供 ・地域業者と連携した星空ガイドの実施 ○新足摺海洋館 SATOUMI オープンと連携した取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・新足摺海洋館 SATOUMI の集客増(プロモーション)活動の活性化に向けた外部人材の活用(~R3年3月) ・竜串地域のランチマップの作成 ・イベントと連動したスタンプラリーの実施 ・奇岩・祈願ポスト、ウミウシポストの設置 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルプロジェクトの円滑な推進 ⇒SNSの活用等による事業者相互の情報発信の強化 ・地元を巻き込んだキャンプ場運営推進体制の構築及び竜串ビジターセンター、足摺海洋館 SATOUMI オープンに向けた取り組みの強化 ⇒キャンプ場を活用した、地元食材の消費拡大、周辺アクティビティへの誘導等の仕組みの検討 ⇒ビジターセンターを拠点とするジオツアー造成に向けたモ

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	ニターツアーの実施 ・体験型プログラムづくりに向けた事業者のスキルアップ及び人材育成 ⇒地域住民を主体としたインストラクターの育成
<p>■No. 37 土佐清水まるごと戦略観光の展開 (土佐清水市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐清水市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)土佐清水市観光協会 ・土佐清水ジオパーク推進協議会 	<p>[指標]</p> <p>入込客数(1~12月) 出発点(H30): 65.7万人 直近値(R元): 66.5万人 到達目標(R2): 67.5万人 目標(R5): 75万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>入込客数: - (※年度末に集計) (R元実績: 66.5万人)</p> <p>○ジオパークガイド登録者数(3月末時点) R元目標: 30人(実績: 28人) 5月末: 28人(対前年同期比: 100%)</p> <p>○ジオツアー年間参加者数 R元目標: 1,000人(実績: 128人) 5月末: 0人(対前年同期比: 0%)</p> <p>○日本ジオパーク認定に向けた取り組みの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水ジオパーク推進協議会総会(4/7)の開催 ・観光拠点等整備事業補助金を活用した看板等の整備及びジオツアーの磨き上げ <p>○ビジターセンターオープンイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新足摺海洋館 SATOUMI オープンイベントと連動したスタンプラリー等への取り組み <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジオパーク認定に向けた取り組み ⇒より確実な認定を目指すため、令和2年度の認定申請を送り、R3年の認定を目指す ・推進体制の強化 ⇒継続した取り組みができる体制の確立
<p>■No. 38 四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光推進(四万十市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)四万十市観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市 	<p>[指標]</p> <p>公共観光施設利用者数 出発点(H30): 143,785人 直近値(R元): 146,798人 到達目標(R2): - 目標(R5): 170,000人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>公共観光施設利用者数 (R2.7月末) : 49,294人 (対前年同期比 61.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十ひろばカヌー館オートキャンプ場完成 ・ Shimanto+Terrace はれのぼ完成 ・ しまんとまるごとクイズショー (予定) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの円滑な実施 ⇒ 県観光補助金 (地域イベント関連) の活用 ・ 効果的な情報発信 ⇒ 高知県のプロモーションと連携した情報発信支援
<p>■No. 39 大月町の地域資源を活用した観光振興 (大月町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ・ 大月町観光協会 ◎ ・ 大月町 ・ 町内事業者・関連団体 <p>※地域産業クラスター関連 (宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 5.3万人 直近値 (R元) : 5.5万人 到達目標 (R2) : 6.5万人 目標 (R5) : 7万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>入込客数 (R2.6月末) : 4,826人 (対前年同期比 32.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県産業振興アドバイザー制度採択 (7/9) (大月町観光協会) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の柏島への一極集中 ⇒ データ収集・分析結果に基づいて、町内のほかの観光スポットへの誘客及び周遊促進を図る
<p>■No. 41 黒潮町の地域資源を活用した観光推進 (黒潮町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ・ (特非) NPO 砂浜美術館 ◎ ・ (一社) 黒潮町観光ネットワーク ・ 黒潮町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 99.3万人 直近値 (R元) : 101.5万人 到達目標 (R2) : 100万人 目標 (R5) : 100万人</p> <p>(2) 町内の延べ宿泊者数</p> <p>出発点 (H30) : 22,538人 到達目標 (R2) : 23,939人 目標 (R5) : 25,369人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 入込客数 (R2.5月末) : 68,797人 (対前年同期比 30%)</p> <p>(2) 町内の延べ宿泊者数 (R2.5月末) : 311人 (対前年同期比 8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金 (外部人材活用支援事業 (単独型)) の活用 (交付決定 5/13) (黒潮町観光ネットワーク) 産業振興アドバイザー制度採択 (6/22) ((特非) NPO 砂浜美術館) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 滞在時間延長や複数の観光資源をリンクさせた観光商品造成 防災学習プログラムを主軸とした MICE の受入推進 黒潮町の認知度をあげるための情報発信 データ収集・分析に基づく観光戦略の実施 <p>※課題への対応について、コロナウイルス対応で予定どおり進んでいない状況</p>
<p>No.42 集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興 (三原村)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社) 三原村集落活動センターやまびこ</p> <p>・(農) 三原やまびこ</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 1,207 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 1,524 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1,300 万円</p> <p>目標 (R5) : 1,700 万円</p> <p>※地域产品及びししとうの売上高</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.6月末) : 248 万円 (対前年同期比 145%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会への参加 まるごと高知オンライン商談会 (6/30)、首都圏小売店オンライン商談会 (7/3) 販売促進活動の展開 さとうみまんまるマルシェ (7/18、19) 三原村特産品フェア (9/5、6) 「手作りおさしみこんにやく」の保存検査 (5月～) HACCP の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルの整備 帰省自粛学生への特別栽培米の発送 (5/18) ししとう家族知事表敬訪問 (特産品フェア PR 等) (8/24) 通販サイト「ししとう家族商店」の開設 (9月～) ハウスでの R2 年産ししとうの栽培 特別栽培米の栽培及び実証実験の実施

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自社製品及び地域産品の販路拡大 ⇒ 展示・商談会への参加及びオンライン商談会等への対応 ・ 保存方法の改良及びパッケージの作成 ⇒ 長期保存可能なパッケージ等の検討 ・ 特別栽培米「水源のしずく」のブランドの磨き上げ ⇒ 実証実験の推進及び販売促進活動の実施

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

取り組み	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進(土佐清水市) 4/1 交付決定 ※一般事業</p>	スープブロス製造ラインの整備	115,863 千円 (60,110 千円)
<p>■No. 17 宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化(土佐清水市) 4/10 交付決定 ※一般事業</p>	宗田節加工販売・体験観光施設の整備	86,803 千円 (39,455 千円)
<p>■No. 36 竜串地域の観光再生構想の推進(土佐清水市) 4/1 交付決定 ※外部人材活用支援事業</p>	新足摺海洋館 SATOUMI オープンに向けた外部人材の活用	7,200 千円 (2,900 千円)
<p>■No. 41 黒潮町の地域資源を活用した観光推進(黒潮町) 5/13 交付決定 ※外部人材活用支援事業</p>	防災ツーリズム・一般観光の取組強化のための外部人材の活用	1,320 千円 (660 千円)

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(自立、成長戦略、その他)(予定)項目 [修正] ■No. 4 三原村ユズ産地化計画の推進

(理由) 指標である「青果出荷量(公社)」の出発点及び目標値に公社以外の青果出荷量が含まれていたため、出発点を42tから34tに、目標を84tから61tに訂正する。

■No. 33 幡多広域における滞在型・体験型観光推進プロジェクト

(理由) 「幡多広域観光振興計画(第Ⅱ期計画)」の策定に伴い、目標値に修正があったため、延べ宿泊者数の目標を400,000人から443,000人、外国人延べ宿泊者数の目標を16,000人から15,400人に修正する。

4 県民参画に向けた取り組み

土佐 MBA や土佐の観光創生塾、観光地域づくり塾などの受講周知

5 相談案件：5件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	6/3	商工業	船舶管理事業者から、今後の事業展開と行政の支援策（地域アクションプランへの位置づけを含む）について相談を受けた。
2	7/9	水産加工	水産加工事業者から、地域アクションプランへの加入及び産振補助金活用に関する相談
3	7/9	商工業	製塩事業者から、地域アクションプランへの加入及び産振補助金活用に関する相談
4	7/21	商工業	地域 AP 事業者から新商品開発に関する相談
5	8/3	商工業	地域 AP 事業者から試作品の商品化に関する相談

修正項目 (案)

修正前

幡多地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.4 三原村エズ産地化計画の推進 (三原村)		
実施主体	◎(公財)三原村農業公社、JA 高知県 (幡多地区)、三原村		
APへの 位置づけ	H21.4月		
事業概要	三原村の環境を生かした農業振興策として、エズの産地化に取り組み、また青果率向上による所得の向上を目指す。		

指標	出発点		実績			目標
	R元	R2	R3	R4	R5	R5
青果出荷量(公社)	42t					84t

これまでの取り組み内容		これまでの主な動き	
<p>◆エズ産地の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクター等機械整備 (H22.3月) →H21産振補助金の活用 (事業費 2,446万円) ・共同選果場兼農業用機械倉庫等整備 (H23.3月) →H22産振補助金の活用 (事業費 5,651万円) ・エズ選果搾汁施設整備 (H28.3月) →H26産振補助金の活用 (事業費 3億 738万円) ・増産のための生産基盤の整備 (H30) ・公社での研修及び園地リースによる新規就農者支援 ・エズドロンク、エズ胡椒、ピール菓子等の商品開発販売 ・県版 HACCP 第 2 スターゲージ認証の取得 (H29.3月) <p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予冷庫・カラリング施設整備 (H24.3月) →H23産振補助金の活用 (事業費 4,496万円) ・栽培講習会や現場巡回指導による栽培技術向上 	<p>＜主な成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積 H19：7.6ha → H30：51.4ha ・生産量 H19：65t → H30：300t ・新規就農 公社で研修し新規就農した人数：2人 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に伴う出荷体制の強化 ・担い手の確保 ・青果率の向上 		

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆エズ産地の確立</p> <p>青果出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県： 増産に対応した出荷体制の見直し、予冷庫などの施設整備 ●(公財)三原村農業公社： JA 高知県との連携による効率的な選果場等施設の運用 <p>担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三原村： 新農業人フェアでのPR活動等による研修生の確保 ●(公財)三原村農業公社： 研修生への研修を通して地域の担い手としての人材育成 ●県 (農業振興センター)： 現地講習会など新規就農者への支援として栽培技術や農業経営の支援 					
<p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(公財)三原村農業公社： スマート農業等を活用した適時適正な栽培管理の推進 ●県 (農業振興センター)： 講習会や現場巡回指導などによる栽培技術の向上 					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「チェック」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・スマート農業：ロボット技術や情報通信技術 (ICT) を活用して、省力化、精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。</p>					

修正後

幡多地域アクションプラン

		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.4 三原村エズ産地化計画の推進 (三原村)		
実施主体	◎(公財)三原村農業公社、JA 高知県 (幡多地区)、三原村		
APへの 位置づけ	H21.4月		
事業概要	三原村の環境を生かした農業振興策として、エズの産地化に取り組み、また青果率向上による所得の向上を目指す。		

指標	出発点		実績			目標
	R元	R2	R3	R4	R5	
青果出荷量(公社)	34t					61t

これまでの取り組み内容		これまでの主な動き	
<p>◆エズ産地の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクター等機械整備 (H22.3月) →H21 産振補助金の活用 (事業費 2,446 万円) ・共同選果兼農業用機械倉庫等整備 (H23.3月) →H22 産振補助金の活用 (事業費 5,651 万円) ・エズ選果搾汁施設整備 (H28.3月) →H26 産振補助金の活用 (事業費 3億 738 万円) ・増産のための生産基盤の整備 (H30) ・公社での研修及び園地リースによる新規就農者支援 ・エズドリンク、エズ胡椒、ピール菓子等の商品開発販売 ・県版 HACCP 第 2 スタージ認証の取得 (H29.3月) 	<p>＜主な成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積 H19：7.6ha → H30：51.4ha (うち公社 34.8ha) ・生産量 H19：65t → H30：300t (うち公社 126t) ・新規就農 公社で研修し新規就農した人数：2人 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に伴う出荷体制の強化 ・担い手の確保 ・青果率の向上 		
<p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予冷库・カラージング施設整備 (H24.3月) →H23 産振補助金の活用 (事業費 4,496 万円) ・栽培講習会や現場巡回指導による栽培技術向上 			

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆エズ産地の確立</p> <p>青果出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県： 増産に対応した出荷体制の見直し、予冷库などの施設整備 ●(公財)三原村農業公社： JA 高知県との連携による効率的な選果場等施設の運用 <p>担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三原村： 新農業人フェアでの PR 活動等による研修生の確保 ●(公財)三原村農業公社： 研修生への研修を通して地域の担い手としての人材育成 ●県 (農業振興センター)： 現地講習会など新規就農者への支援として栽培技術や農業経営の支援 					
<p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(公財)三原村農業公社： スマート農業等を活用した適時適正な栽培管理の推進 ●県 (農業振興センター)： 講習会や現場巡回指導などによる栽培技術の向上 					

【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、FOSHOPと呼ばれる。製造における重要な工程を系統的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。

・スマート農業：ロボット技術や情報通信技術 (ICT) を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。

修正項目（案）

修正前

幡多地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No. 33 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 (幡多地域全域) ※地域産業クラスター関連（土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト）		
実施主体	(一社)幡多広域観光協議会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	「幡多広域観光振興計画（第II期計画）」に基づき、マーケティング機能を強化し、データに基づくエリアプロモーションを実施することで幡多地域全体への宿泊者数の増加を目指す。		

指標	実績					目標
	出発点	R2	R3	R4	R5	
(1) 延べ宿泊者数	H30	398,797人				400,000人
(2) 外国人延べ宿泊者数		12,101人				16,000人

これまでの取り組みの内容>		これまでの主な動き	
<p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化及び増員（H22.6月） 「幡多広域観光振興計画」に基づく取り組みの実施（H27～） 日本版 DMO 候補法人登録（H28.8月） 日本版 DMO 登録（H31.3月） <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2種旅行業取得（H22.11月） 「はた博」の開催（H25.7月～12月） 「はた旅」の開催（H26～） 土佐の観光創生塾の受講（H28～） <p>◆広報PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用した情報発信 パンフレット・ガイドブック等の充実・強化 旅行会社等へのセールスプロモーション 	<p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘客力の高い又は顧客ニーズに対応できる体験商品造成 →はた旅体験商品数：101商品（H30） 教育旅行受入及び体験プログラムの造成 →16団体、1,325人（H30） 造成プログラム：2件 旅行会社向けの旅行商品セールス →商品販売数：32件、872人 外国人観光客向け旅行商品セールス →延べ宿泊数：12,101人（H30） <p>◆課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のマーケティング機能の発揮 外国人宿泊者数の伸び率向上 広域観光組織として、域内の消費を最大化させる取り組みの推進 		

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆商品造成・誘客促進</p> <p>商品化及び商品化支援による地域の魅力創出の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)幡多広域観光協議会：既存商品の磨き上げ、新商品の開発、宿泊につなげるための地域の魅力創出 県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 <p>旅行会社等へのセールスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)幡多広域観光協議会：宿泊を伴う教育旅行、団体旅行を増やすためのセールスの強化 関係者が様々な販路や制度を活用して、利用者を増やすための支援 県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					
◆広報PR	<p>ブランド形成による地域認知度向上の推進、マーケティングに基づくプロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)幡多広域観光協議会：「幡多地域のブランドデザイン、広報・PR」によるブランドの浸透、宿泊者マーケティングに基づくプロモーションの仕組みの構築及び実施 県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆組織体制の強化	<p>来訪者満足度を向上するための地域受入態勢整備を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)幡多広域観光協議会：広域に関する観光周遊企画の立案・情報提供、発信の推進、広域観光に関わる地域の受入態勢基盤強化、人材育成 県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	<p>【用語】・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸、芸術、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。</p>				

修正後

幡多地域アクションプラン

		分野	観光
AP名 (実施地域)	No. 33 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 (幡多地域全域) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)		
実施主体	(一社)幡多広域観光協議会		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	「幡多広域観光振興計画(第II期計画)」に基づき、マーケティング機能を強化し、データに基づくエリアプロモーションを実施することで幡多地域全体への宿泊者数の増加を目指す。		

指標	実績					目標
	出発点	R2	R3	R4	R5	
(1) 延べ宿泊者数	H30	398,797人				R5 443,000人
(2) 外国人延べ宿泊者数		12,101人				15,400人

これまでの取り組みの内容>		これまでの主な動き
<p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化及び増員 (H22.6月) 「幡多広域観光振興計画」に基づく取り組みの実施 (H27～) 日本版 DMO 候補法人登録 (H28.8月) 日本版 DMO 登録 (H31.3月) <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2種旅行業取得 (H22.11月) 「はた博」の開催 (H25.7月～12月) 「はた旅」の開催 (H26～) 土佐の観光創生塾の受講 (H28～) <p>◆広報PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用した情報発信 パンフレット・ガイドブック等の充実・強化 旅行会社等へのセールスプロモーション 	<p><主な成果></p> <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘客力の高い又は顧客ニーズに対応できる体験商品造成 →はた旅体験商品数：101商品 (H30) ・教育旅行受入及び体験プログラムの造成 →16団体、1,325人(H30) 造成プログラム：2件 ・旅行会社向けの旅行商品セールス →商品販売数：32件、872人 ・外国人観光客向け旅行商品セールス →延べ宿泊数：12,101人 (H30) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のマーケティング機能の発揮 ・外国人宿泊者数の伸び率向上 ・広域観光組織として、域内の消費を最大化させる取り組みの推進 	

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品造成・誘客促進	商品化及び商品化支援による地域の魅力創出の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会：既存商品の磨き上げ、新商品の開発、宿泊につなげるための地域の魅力創出 ●県(地域本部等)：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	旅行会社等へのセールスの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会：宿泊を伴う教育旅行、団体旅行を増やすためのセールスの強化 関係者が様々な販路や制度を活用して、利用者を増やすための支援 ●県(地域本部等)：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆広報PR	ブランド形成による地域認知度向上の推進、マーケティングに基づくプロモーションの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会：「幡多地域の」ブランドデザイン、広報・PRによるブランドの浸透、宿泊者マーケティングに基づくプロモーションの仕組みの構築及び実施 ●県(地域本部等)：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆組織体制の強化	来訪者満足度を向上するための地域受入態勢整備を推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会：広域に関する観光関連企画の立案・情報提供、発信の推進、広域観光に関わる地域の受入態勢基盤強化、人材育成 ●県(地域本部等)：産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	【用語】・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。				